

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1990100099
法人名	有限会社保泉商事
事業所名	グループホーム 花みずき
所在地	甲府市上阿原526番地1
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 20 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 1 月 26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設以来14年となりました。住宅街の静かな環境の中で木造平屋のゆったりとした住宅で全室南向きにて衣食住を共に朝は体操やレクレーションなど毎日行っており、季節ごとの行事、誕生会での利用者と一緒に料理や余興など楽しい毎日を過ごしております。ボランティアさんはコロナにより玄関だけで中に入らなかったのが職員が大正琴、オカリナなど聴かせて楽しいひと時を提供しております。広い葡萄の畑の眺めが良い環境にあり畑には季節の野菜や花を植え利用者様と共に苗を植え楽しんでおります。春はジャガイモ、アスパラ 夏はスイカ、茄子、キウリ、トマトなど秋にはさつま芋、ネギなど、花々も美しく咲き、眺めております。また小鳥が前の木に止まり巣作りを始め卵を産み雛がかえり成長して巣立つ営みを眺めては、のどかな施設です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ぶどう園が広がる閑静な場所に位置する花みずきは、開設14年を迎え認知症対応に精通した多くのベテランの職員に支えられ、入居者の皆さんがゆったりと過ごしている姿があります。畳部屋も整備され、天井も低く設計されており、落ち着いて過ごせる環境です。目の前に広がる農地は日当たりも良く、季節の野菜を栽培し、収穫は入居者と一緒に行い、食卓を賑わせています。しかし、草取りや畑の管理が大変で、地域の方の応援をお願いしています。畑の周りには木を植え、花を眺めては季節を感じています。通学路にも面しており、子供たちの元気な声は地域に根ざした環境といえます。コロナウイルス感染対策でボランティアさんの受け入れも制限されている中、お便りを発行し、関係が途切れない工夫をされていることを高く評価します。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域にねざして、いつでも、どこでも、だれにでも。」を理念に掲げ地域の中で温かい介護サービスをめざしております。管理者と職員は理念を念頭において温かいケアサービスを目指して日々実践につなげております。	法人の理念とは別に施設の理念として「いつでも、どこでも、だれにでも」とわかりやすい理念を掲げ、朝の申し送りには職員が理念の確認を行い共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加わり地域活動に参加し、交流している。例えば地域の方から野菜、果物を届けてくださっております。	地域の自治会に参加し、河川の清掃を一緒に行い、ぶどうの差し入れを頂いたり、夏祭りには近所の子供を招くなど地域に根ざした交流が日常的に行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方のご希望で施設の案内をしたり秋祭りにはご招待したり祭りの出し物をお配りしましたがコロナの感染予防のため2年は中止になりました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の割合で会議を行ってまいりました。しかしコロナ感染予防のため書面でご意見を郵送して頂いております。	コロナ感染の予防策と面会についての注意喚起等、家族を交えて理解を求めている。また、防災訓練やレクリエーションの種類の提案を受け、それらの意見をサービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や包括センターには日頃から連絡をとり相談しご指導を頂いております。コロナ感染予防のため郵送により書類を届けております。	日頃から市の担当者や連絡を取り合い、新規入居者の紹介を頂き、支援困難事例に関しては地域包括支援センターと情報を共有し連携を密にしている。また、処遇改善書類の内容指導を受けるなど協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝、夕、のミーティングやフロア会議には管理者、ケアマネ職員など身体拘束を理解してもらうようにしている。皆理解し納得している。玄関の施錠は利用者の安全のためやむを得なく施錠している。しかしフィジカルロック、ドラックロック、スピーチロックを聞いたときはすぐ注意をしあうように決めている。	身体拘束防止に関する委員会を設置し、3ヶ月毎に学習会を行っている。利用者には常に言葉がけに注意し、なまり言葉はきつく感じてしまう場合があるので、誤解を招かないようお互いに注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の内外の講習会に参加する予定でしたが、コロナ感染予防のため参加できなかったが充分皆理解しております。スピーチロックを聞いた時はすぐ注意するようにしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前 成年後見人を使ってお世話した方がおりました。職員は良く理解している。よく支援しておりました。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時締結、解約 改定の際はご家族に十分の説明を行い理解と納得を図っている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族に通知を出し、要望やご意見をお聞きしております。運営推進会議に役員には相談に乗って頂き運営を進めております。	ご家族が面会に来訪された際に要望や意見をお聞きしている。コロナウイルスで外出を制限していた時ではあったが自宅での面会を希望している利用者が出て、話し合いの結果、要望に応える事ができた。また、家族参加の夏祭りでは手作り神輿で盛り上がり、再開を希望する声を反映した運営を進めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や朝、夕、のミーティングでは職員の意見を活発です ほとんど職員の意見を聞いて話し合いで運営を進めております。	管理者はフロア会議やミーティングで出された意見を尊重している。具体的には、布パンツにしたかどうか、便秘解消に麦ご飯はどうか、早番業務を遅番にしても良いのでは等、活発な意見や提案があり、業務に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部は管理者の意見を聞きながら職員個々の努力や実績、勤務態度など状況を把握し職場環境の整備管理者は処遇改善、資格手当など改善を行っている。働く意欲の持てるよう環境の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の一人ひとりの力量や個性を熟知把握、施設内外の研修に参加する。しかしコロナ感染予防のための研修は無理でした。施設内でできる研修をしていました。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターや近隣のグループホームのケアマネなど交流をしております。ワクチン接種の情報など営業など交流を交わして向上に取り組みをしている。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、施設見を兼ねお茶の時間や行事に参加して頂き、入居時には、居室に馴染みのものを持ってきて頂いてまた本人が安心して話せるようご家族と一緒に話す機会を設けて現在の気持ちや今後の希望など聞き、安心して入居できるようにする。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談し、入居に至るまでの経過や家族の安心や要望などを聞く機会を設け、ご家族が不安を少しでも軽減出来る様努める。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や担当されていたケアマネジャーから情報を収集し、本人の身体状態や生活習慣、日々の生活での思いなど配慮して必要な支援を見極めている。社会資源を活用出来る様対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事、したい事を考え、可能な限り役割を持って生活出来る様支援している。また日常生活の中で人生の先輩として尊敬し、意見を聞いたり 学ぶ事を意識している。			



自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告、電話連絡も取継ぎの際情報を共有している。又手紙など返事を書き 外出 面会 出来る限り要望をお聞きし、ご家族との絆を大切に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族 親戚のかた、友人など馴染みの方を大切にまたいつも買い物に出掛けているお店など途切れない様支援に努めている。花壇や畑を耕し野菜を作り 途切れないよう大切にしている。	本人がこれまで大切にしてきた友人から電話があった時は取り次いで会話を楽しんでもらい、関係が途切れないよう寄り添っている。家族と窓越しに面会をしたり、好物の差し入れを受けるなど、馴染みの関係が継続するよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール、食堂の席は位置を考え、利用者同士で会話出来る様配慮している。状況に応じて職員が仲に入り共通の話題や活動出来る様関わり合ってる。支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様 ご家族様でもその後の様子を連絡をして励ましたり、ご家族様の相談の対応したり、病院へ面会や届け物をしたり繋がりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の生活歴や性格を把握し、ご本人の意向に合わせて対応をしている。意思表示が困難な方は、ご家族から情報をえたり、日常生活の中での表情や動作をから思いを察し、その人らしい暮らしの支援を職員間で検討している。	一人ひとりの生活歴を尊重し、大切に思っている事を把握し意向に合わせている。二人の言語障害のある入居者には、行動や表情から本人の意向を察し、利用者本位のケアに努め、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族や入居前の担当ケアマネジャーから、暮らしぶりや生活歴、生活環境などの情報を収集し把握に努めている。その情報を基本情報にまとめ職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣、食事、排泄、睡眠時間などの把握に努めている。日中、夜間の様子を観察し、心身状態に変化があった場合は記録に残し、職員間で確認し合っている。また、ご本人のやりたい気持ちを大切に出来る事やりたい事を模索している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のフロア会議で職員の気づき、家族からの要望、ご本人の心身状態の変化を確認し、主治医・看護師からの意見を参考に話して話し合い、現状の確認と見直しについて検討し、ご本人の思いに添った計画の立案を目指している。	本人がより良く暮らすために関係者と話し合い、課題を明確にしている。入浴を拒む人への具体的対応は体重を量る事から始め、足だけでも温めるよう促す等のアイデアを生かしている。失禁のある人へは夜はリハビリパンツでも昼はパンツで様子を見るなど、現状に即した介護計画を丁寧に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容、気づいた事、注意点などを記録し申し送る事で、職員間で共有している。また、入居者の状況やケアについて検討し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族とコミュニケーションをとり、状況やニーズを把握に努めている。受診時に家族が対応できない時は管理者・CMが付き添い、また、入居者の心身状態により受診の送迎も行い柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々が、手芸品や絵手紙、季節の写真が届けて下さったり、近隣の方より時期の野菜など差し入れて下さり、季節を感じたり、昔を思ったり、また、入居者皆さんで調理したりと、生活を楽しむ事ができよう地域の方々と協働で支援をしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の心身の状態や希望にに適した病院(往診医を含む)の受診を支援している。特に専門的な病院受診は、往診医の紹介状を頂き、ご本人に適した治療を受けられるようにしている。	主治医は2週間毎に往診があるが、変化が見られた時は主治医に相談し指示を仰いでいる。なお、総合病院の受診が必要な利用者に対しては、日頃の介護記録を家族に渡すなど連携を深めている。歯科受診については、近隣の歯科医院への付き添いを行っており、希望や状態に即した医療を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務し、介護職より入居者の心身の変化や気づきなどの情報を伝え、看護師より意見を聞き、看護処置を受けられるようにしている。また、受診の指示がある場合は迅速に対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には管理者・CMが付き添い、ご本人・ご家族の不安を軽減できるように対応している。入院後は情報提供書を作成・提供し病院やご家族と情報を連絡し合い、入居者の必要な処置や治療、経過やご様子などの把握し、早期に退院できるようにしている。また、連携室を訪問し関係作りに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設での看取りは不可能な事を説明し、心身状態が低下し共同生活の継続が困難と主治医が判断した場合、ご家族と施設で話し合い、ご家族の意向を踏まえた施設(特別養護老人ホームや看取りのできるグループホームなど)への申し込みをお願いしている。	契約時に十分な説明と同意を得ている。重度化した場合は、主治医と家族や職員を交え話し合いをし、できる事できない事を共有してできる限りの支援をしている。なお、家族の意向を踏まえ特別養護老人ホームや医療機関とも連携し、退所後の受け入れについても支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生法の訓練を行っている。また、振り返りや反省会をを重ねて実践力に繋げている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災と地震か水害を想定し入居者と一緒に日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、全職員が身に付けられるよう訓練を重ねている。また、地域との連携が図れるよう運営推進会議で課題を提供し意見や指導をして頂いている。	年2回避難訓練を実施。夜勤者は一人に対応するためその訓練も実施している。頭巾やタオル等防災グッズは出入り口に準備し、倉庫には水や食料、おむつ、ラジオも準備している。地域の協力を得るため運営推進会議において意見や指導を受け、協力体制を築いている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設では身体拘束委員会があり3か月一度会議をしている。虐待や拘束などについて良く話し合っている。利用者様は人生の先輩であり、尊敬の念を持ち個人の生活を把握して言葉使いに配慮している。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、職員の採用時には誓約書を交わし、自分がいやだと思ふことはしないを徹底している。部屋の入室は必ずノックをし、声かけ等にも配慮してお互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人がしたい事など希望や思いを普段から会話から引き出しせるように心がけ、自分で決定出来る様時間をかけ表情や行動を観察して読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先せず、その日の利用者の状況やペースにあわせて希望をお聞きし活動内容を変更するようにしている。また活動を変更しても参加できるか意思を確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洗顔 歯磨き、整髪 声かけ介助で継続出来る様支援。ご家族から、どのような洋服が好みか聞いて出来るだけ希望が叶うように支援する 帽子やスカーフも選んでいただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者用献立ですが季節に合わせたメニューが配達される。職員は利用者様と盛り付け、配膳、テーブル拭きなど準備をする。イベントの時と誕生会など下ごしらえから調理まで一緒に行う。和やかに談話をして全員で食べた後かたづけを行っています。アレルギーのある利用者様には代替えで補っています。	主なメニューと食材は業者より調達されているが、利用者と一緒に準備や盛り付けを行っている。クリスマス、夏祭り、お誕生会等イベントには利用者も一緒にエプロンを着け、野菜を切ったりから準備を行い、皆さんで和やかにテーブルを囲む姿があります。ホットケーキ等手作りおやつも楽しみの一つです。献立記録は利用者が思い出しながら記入しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の業者がカロリー計算されたメニュー届く食事を記録し、摂取量を確認している。毎月行事食を手作りして利用者の好みを聞き皆様と一緒に調理して楽しく支援しております。水分10時 15時とお茶(好み)をお飲み頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケア・義歯洗浄は利用者の力に応じて声かけ・誘導・介助を行う 生活習慣の違いや拒否のある方は職員を変えたり状況に合わせて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	運営推進会議やご家族に通知を出し 要望やご意見をお聞きしております。運営推進会議に役員には相談に乗って頂き運営を進めております。	本人の排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を促し自立に向けた支援をしている。特に、便秘傾向の人の対応では、下剤の使用量を調整し、食事内容を工夫するなど自力排便に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防や改善は水分十分摂取して頂き、毎日ラジオ体操レクでの運動・散歩など活動と麦ごはん、牛乳 寒天ゼリー、便秘予防の摂取している。また主治医に相談してあった下剤を処方して頂いています。		



(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には月～土曜日の午後からの入浴をしている。要望や失禁のある時は日曜日でも対応している。気が進まない方は声かけタイミングを工夫し場合によっては清拭で対応している。入浴剤で視覚・嗅覚を刺激し、楽しく気持ちの良い時間を提供している。	週2回の入浴を基本とし、場合によって随時対応している。入浴剤を使用し変化を付け、楽しんで気持ちよく過ごせるよう工夫している。入浴拒否の人へは、別の目的を提案しスムーズに誘導できるよう個々に沿った支援を展開している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・消灯の設定なく、規則正しい生活を送れる範囲内で、自分のペースで休んで頂いている。Mた、電気毛布を使用したりホールでテレビ鑑賞やお茶を飲んだり希望に応じて、個々のスタイル尊重している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局による居宅管理指導を受けており、薬剤師との連携を図り管理しておく。症状の変化は医師と看護師に報告している。服薬表で用法・副作用については確認でき、変更や追加があった場合は連絡帳に記入し、周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が出来る事、したい事を考え、可能な限り役割を持って食器洗い、あ掃除、洗濯干し洗濯たたみ、盛り付け配膳それぞれ役割をきめ その日の体調で無理をせず役割をもっている。気分転換にバルコニーで嗜好品や好きなお茶を入れ生活の中で張り合いと喜びを引き出している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナで頻回には外出はできませんでしたが、しかしコロナが少し落ち着いた11月は外出 面会を介助いたしました。本人を希望で実家にかえる方 墓参りなどお出かけになり方いろいろでしたが、ご家族の協力頂きながら支援している。コロナ中あっても9月10月11月は町内散歩にでかけた。	日常的な外出は控えているため、週2日30分程かけてぶどう畑まで散歩に出かけている。途中休む必要もあり事前に車椅子を設置し休憩に備えている。ひとり一人の外出希望に対してはご家族の協力を得て出かけられよう支援している。また、毎日ラジオ体操やリハビリ運動を行い気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から希望があった場合はご家族に相談し、お小遣いを所持している。買い物の際は飲み物など購入している。しかしここ2年はコロナ感染が怖くお店に外出はしていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夕方になると急に帰宅願望となりご家族に電話をしたいと懇願されてお電話をさせてもらいます。ラインでビデオ通話とか元気な様子を動画や写真で送っております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾り、廊下の壁にはイベントや行事で楽しめた思い出の写真を貼り、ホールには毎月の作品を展示や置物をして日々暮らしの中の楽しみの一つになるように努めて居る。また居間・台所・食堂・トイレは次亜塩素酸で消毒し空気洗浄機や加湿器を使用し、ウイルス対策も行っている。カーテン開閉は利用者が自由に行ったりもしている。	共用のフロアでは作品の制作や展示、イベントや行事を楽しみ、居心地良く過ごせるよう努めている。また、通学路に面しているバルコニーではテーブルを囲んでおやつやお茶を飲み、子供たちの声も聞かれ生活感あふれる空間となっている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット名( )	食堂に3ヶのテーブル食席が決っている。丸いテーブルで気の合う利用者同士で穏やかに食事が出来る様支援をしている。 日常生活の中でホールでレクをし、食堂・居室の部屋と好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		入居時にご家族と話し合い本人の使いなれた馴染みの家具や家族の思い出の写真や、食器など持ち込んで頂き、本人と一緒に配置し、居心地よく過ごせるように配慮している。	居室は馴染みのタンスや思い出の写真、習字、家族からの贈り物等を本人と一緒に配置している。使い慣れた食器を使用し心地よく過ごせるよう工夫している。荷物も次第に増え、手狭になっている部屋もあるが本人の意向を尊重し混乱を招かないよう対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		居室内、廊下、トイレ、脱衣所 風呂など手すりが設置しており歩行不安定な人が使用している。歩行時に安心が図れる様になっている。洗面所は共同使用になって自立している方は上段車椅子の方や車椅子を使用するば自分で出来る方などは下段を使用し、譲り合いながら使っている。		